

■テーマ別研修について 児玉常典会員

テーマ別研修は、『会員増強』、『米山記念奨学会』、『ロータリー財団』、『地区長期計画』の4つのテーマに基づき行われました。

最初に、会員増強について、松本茂太郎会員組織委員会カウンセラーが「会員増強をいかに」という題で話されました。

過去5年間の会員数の変動、地区会員増強委員会 次年度地区目標、会員増強のための計画立案、クラブ会員増強委員会、クラブ・リーダーシッププラン、会員増強計画、会員調査、この最後に「ガバナー補佐に協力を」ということで●各クラブの相互協力 ●女性会員の増強 ●自クラブの会員増強の進め方 ●退会防止について 等を話されました。つまり、効果的なロータリークラブとなるためには勧誘と会員維持と会員の教育が会員増強に係っていると強調されました。

次に米山記念奨学会について、仁田一也ロータリー米山記念奨学会副理事長が担当されました。外国より日本に奨学生を向かえる目的は、国際交流と親睦を深め「ロータリーの心を伝えていく」ことにあります。

現在、ロータリーは、中国からの奨学生を多く迎えておりますが、今日の中国人は経済的に豊かになっているのに何故、奨学金を支援するのかということを知るとともに、私も直接この言葉を聴きます。

次にロータリー財団については 川妻二郎地区ロータリー財団委員会カウンセラーが担当されました。

このことを踏まえ、日本での各ロータリークラブにお世話になっている奨学生の感謝の声を述べたビデオを紹介され、これからは中国以外の国のみならず、やはり中国に対しても「ロータリーの心を伝えていく」ためにも必要なことではないだろうかと言われ、寄付目標の15,000円/人の達成を宜しく願いたいとのことでした。

「未来の夢計画」が目指しているものは何か。2002年からRIの長期計画委員会を中心に検討が進み、ロータリー財団については2010年の規定審議会での未来の夢計画の試験期間を3年間(2010年7月～2013年6月)を日本では6地区をパイロット地区と定め、この地区はそれ以外のノンパイロット地区として活動しています。

地区のロータリー財団は、2013年7月からまったくのシステムへの変更となることにより新地区補助金、クラブと地区が立案するグローバル補助金に対し、地区財団の方向性を決定するにはどうすれば良いのか この2、3年で行ってき

たものは、**1.**今の財団の理解力をあげること **2.**財団本部が管理してきたものを地区がやるには。 **3.**大型の活動が継続的にできるには。ということはどうすることによってこれらの目的の達成ができるのかを検討しております。

さらに現在では未来の夢計画の目的を達成するためのロータリー財団夢計画準備委員会を立ちあげています。チーム6名で構成され我がクラブからは小田大治会員が参加されています。川妻二郎カウンセラーによれば未来の夢計画の目的を達成するためには、「潜在的モチベーション・エネルギーをどうやって引き出していくのかがツボとなっているのかなあ」というお話でした。

また、夢計画準備委員会より今後の説明計画について伊賀委員長(徳山東RC)より説明があり、2010～11年度のクラブ財団委員会ではどのようにすればよいのかを話されました。

最後に、地区長期計画について、西村栄時地区長期計画委員会委員長が担当されました。

地区長期計画についてですが、長期計画委員会の経緯、地区長期計画委員会では、**1.**基本に立ち返る**2.**活力あるクラブ作りと奉仕活動の充実**3.**公共イメージを高める**4.**地区組織の見直し**5.**ロータリー財団への理解と協力

基本に立ち返る、会員減少の原因は、ロータリー情報の充実・徹底、クラブの一年間は、陸上競技に例えるならば、ということをお話され、以上のことから「皆さんがクラブ活性化の主役」だということでした。以上で報告を終了します。

■PETS報告について 藤後敏彦次年度会長

2011-12年度RI会長のテーマ及び内容についてお話ししたいと思います。次年度のRI会長はインドのカルヤン・パネルジーさんという方です。インドから3人目の会長ということですが、奇しくもRI会長ノミニーに日本からも3人目の田中作次さんが承認されました。何年後には日本で国際大会が開催されますので、ぜひとも多くの皆さんと参加したいと思います。カルヤン・パネルジーさんの内容につきましては、次年度田村ガバナーエレクトの話によれば、東洋的で少し難しい話が多いといっておられますが、簡単に要約しますと一人一人の心の成長が世界を変えるということで、自分の中の潜在能力を高め博愛の精神を広げていこうというような内容です。

時間が来ましたので、地区の重点目標とかいったことは夜間例会の時にでもいっくらか話させていただきたいと思います。

2011年 3月24日(木)

第 34号

本日のプログラム	奉仕プロジェクト委員会
次回例会	3月31日(木) 18:30～ 三次商工会議所
次回プログラム予告	夜間例会

例会記録・・・3月17日

- 点 鐘・・・・・・中川 筆之 会長
- ソング・・・・・・「君が代」「それでこそロータリー」
- ビジター・・・・・・木原和明様(庄原RC)



会長挨拶 ■中川 筆之 会長



二週間のご無沙汰です。先週は確定申告の都合で欠席しました。さて、先週の例会の翌日に関東東北地震が起きました。未曾有の被害が連日報道されていますが、一個人としてまたクラブとして何が出来るか今日の理事会で検討いたします。そして救済支援の手が十分に届くことを祈らずにはおられません。

さて、13日の日曜日にはPETSが有りまして私はガバナー補佐としまして、また藤後会員は会長エレクトとしまして参加いたしました。他に前田ガバナー年度の役員の方々はそれぞれ田村ガバナーエレクト年度の役員への引継ぎ会議が有りました。それぞれたいへんご苦労様でした。特に田村ガバナーエレクトはRIが推奨してRLIがことの外たいへんお気に入りでありこれに重点を置いてクラブ運営をやりたいと言われてます。12人のガバナー補佐エレクトは私を含め既に三回のレッスンを終えていますが、10時開始の昼食を挟んで5時までRLIを含め目いっぱいレッスンですが一様に疲労困憊の色が濃くなっています。藤後会長エレクトさんPETSのご感想はいかがですか？私と一緒に田村年度を耐え抜きましょう。本日は以上です

幹事報告 ■菅原 暢之 幹事

- 3月31日夜間例会出欠表の回覧
- ニュージーランド地震災害義援金 (1,000円)
- 東北地方太平洋沖地震災害義援金 (10,000円)
- 来診文書
 - ・ 麻薬覚せい剤乱用防止センターよりニュースレター
 - ・ 日本赤十字社より3月号

出席報告 ■明山 晃映 委員長

3月3日の出席報告					本日(3月17日)の出席状況			
会員数	出席者	Make-up	出席免除者	出席率	会員数	出席者	出席免除者	欠席
44	32	1	5	81.82%	44	29	5	10

Make-up 増田会員 (ロータリーの友委員会)

委員会報告

■谷岡会員

3/12に開催された小林RCの50周年記念式典に山下小林友好委員長、天野英樹会員と私の3人で出席してまいりました。前日向かった道中、大震災発生というニュースを聞き、どうなることかと思っていたら案の定、講演が予定されていた松平さんが来られなくなり急遽中止。記念式典では、中川会長の祝辞を述べ、懇親会では前田ガバナーからのメッセージが紹介されました。2次会でも心からの歓待を受けましたので、我が50周年の際には小林から8名来られるので、ぜひ歓待していただきたい。

■野球同好会 児玉会員

ガバナー杯野球大会の案内。
前夜祭 3/25ホテルグランヴィア広島で開催。この時に1回戦のくじを引きますが、三次クラブは4/29の試合となっていますので、同好会のメンバーは日程の調整をお願いします。また、今年度の年会費5,000円を事務局の方で徴収しますので同好会の皆様宜しくお願いします。

■明山50周年式典部会長

3/24例会終了後サロンにて式典部会を開催。部会員の方は、出席のほど宜しくお願いします。

SAA報告 ■ 属 吉行 SAA

スマイル5,000円

木原和明	メイクアップでお世話になります。よろしくお願ひします。
児玉敏宏	本日、中国新聞に果実酢について載せていただきました。谷口支局長ありがとうございました。
古永雅則	三次RCが50年前に創立された3月15日が確定申告の最終日でした。少しだけ肩の荷がおりました。
増田茂典	3月14日ロータリーの友、全体会議に東京へ行ってきました。計画停電で混乱した交通機関、余震のゆれなど大災害の影響を肌身で感じてきました。被災者のために出来ることを考えたいと強く思った東京でした。
平田克明	夫人誕生日

プログラム

PETS報告



■基調講演について
藤谷博義会員

講師は、広島西医療センター医長 片山禎夫先生で、「社会の中で認知症の人と家族が豊かに暮らす方法」という題目で話をされました。

①概要 認知症は誰でもなり得る。65歳以上・・・約10%、85歳以上・・・約25%が認知症、90歳以上・・・約90%が認知症と同じ脳機能低下

認知症を理解するための脳機能の基礎知識
記憶とは、漠然とした記憶・・・忘れやすい。具体的なことの記憶・・・中程度維持できる。情動的な記憶・・・長期間維持できる。
脳の機能は、気が散らないで集中すると上がり、楽しいと高まる。不安や気になることがあると、ふと忘れてしまう。

c)認知症ストレスとは、善意・好意・孝行の対応であっても、ストレスを増強することがある。(例えば、服を着るのを許可なく手伝う。失敗の理由を説明する。)

②認知症の進行

認知症の前症状(病的な物忘れ)・・・他人に迷惑をかけているという意識、家族からの注意、人間関係がギクシャク等によって、自信と誇りを失い

孤独感や不安感が蓄積され、認知症が進行する。失見当識・・・認知症になると物忘れに加え、日時・場所・方向が解りにくくなり、不具合が多発、皆さんに迷惑をかけたくないと思うと人との億劫に。失認・・・名前、物、人が一致しない。人の顔が解りにくくなる。判断力低下・・・物が多いと解らなくなる。失行・・・服を着るのが困難に。失語・・・言葉が解りにくくなる。

③問題点

家族は認知症ストレスを学んでいないし、地域社会も理解していない。研修の場を多く作り参加してもらおう等、認知症ストレス緩和 society の確立が望まれる。
ゴルフ場、温泉場、スーパー、旅行など認知症があっても楽しめる娯楽が必要。

④まとめ

家族や知り合いに認知症の人がいたら、昔の「素晴らしさ」に感謝と褒め言葉を。「ありがとう」と感謝の言葉を1日1回。一緒に行動し喜怒哀楽を十分に表現。失敗を注意しない、指摘しない、教えない、そして一緒に喜ぶ。
認知症を忘れさせて、自信と誇りを取り戻す。地域こそ一番の薬。、みなさんの笑顔で元気が出ます。